

## 第15回県政ひざづめ談議結果概要

○実施日時：平成22年11月22日 14:30～

○開催場所：山梨県酪農会館

○対話グループ：山梨県酪農業協同組合ほか

### ○司会

若干、予定時刻より前ですけれども、知事が到着いたしましたので、早速でございませぬけれども、ひざづめ談議を始めさせていただきます。

まず横内知事からあいさつをいたします。

### ○知事

どうも、皆さんこんにちは。

今日は酪農をやっておられる皆さん方にお集まりをいただいたわけでありませぬけれども、富士ヶ嶺とか、清里とかそれぞれ遠いところからおいでいただきまして、本当にありがとうございました。

酪農を取り巻く状況が厳しい中で、皆さん本当にご苦労しておられると思いますが、そういう中にあっても、清里ミルクプラントとかふじがね高原牛乳だとか、新しい銘柄をお出しになってご努力をなさっているということに対して、私どもは大変うれしく思っており、そうした皆さんの努力に、ぜひバックアップをしていきたいと思っております。

今日はひざづめ談議ということでありまして、格別なことはありません。普段いろいろお考えになっていることを遠慮なく言ってもらったり、あるいは質問をしてもらったりすればよろしいわけでありまして、決して肩肘張らずにいろいろとお考えになったこと、お気づきになったこと、そんなことをお話いただければありがたいというように思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

### ○司会

それでは続きまして、同席しております、県の担当者を紹介させていただきます。

畜産振興ですとか畜農経営の安定対策などに取り組んでおります、白砂畜産課長です。

### ○畜産課長

よろしく願いいたします。

### ○司会

それでは早速、始めます。よろしく願いします。

### ○知事

これはカマンベールチーズ、これも作っているんですね。普通のチーズでなく。これは清里ミルクプラントで作っている。

ミルクプラントは皆さん方も参加しているんですか。

### ○参加者

高根地区の酪農家など26名の社員で、有限会社を組織してやっています。

○参加者

今日はお忙しい中、私どもの組合までこうしてはせ参じていただきましたことを、大変光栄に思っております。ありがとうございます。

また、日ごろは酪農の振興のために、ご支援いただいておりますことを心から感謝しております。

酪農の情勢につきましては、すでにご案内のとおりでございまして、4年前から飼料が高騰したというようなことから、乳価の値上げもしていただいたということもありますけれども、やはり一番の悩みは景気低迷というようなことが非常に足を引っ張って、なかなか消費が伸びない。そんな状況の中で今年は宮崎県における口蹄疫、大変、県のほうからご心配をいただきまして、本県の被害はなかったわけですが、本当に震撼させてくれた、病気でした。

また、それに加えて、今年は猛暑ということで非常に多くの牛が疲弊したというようなことも、本当に困った現象であったということです。

また、そんなようなことが冷めやらぬうちに、今度は環太平洋連携協定ということが、すでに国において打ち出されたということでもって、私どもも、さあ、これはどうなるのかなと、困ったなというようなことから、今、私どもの上部団体、いわゆる酪農の全国組織におきましては、何とか国において、考え方を改めてほしいというようなことを訴えて、今、政府や国会議員さんをお願いをしているという状況であります。

したがって、もしこのまま関税が撤廃というようなことになりましたら、非常に日本の農畜産業全て壊滅的な打撃を受ける。こういう形になりまして、何としてもこれは断固反対し、また強力に阻止しなければならないと考えているところでもありますけれども、また県におきましても、その点でいろいろご指導いただきたいわけですが、ぜひこの若い方々が今後とも一生懸命、元気よく働き、また夢を持って働けるような、そんな環境をいかにつくっていくかが大事かというように私たちも考えておりますけれども、またぜひ知事さんのご指導をお願いしたいというわけです。

今、酪農業の発展のために、ここにいる若い人も一生懸命に取り組んでもらっているというわけですが、今日はそんなお話をざっくばらんにしていただいて、そして今後とも山梨から酪農は、ずっとずっと、灯し火が消えないように、よろしく願い申し上げます。

○知事

この中に、ミルクプラントに参加しておられる方はおられるわけですか。あなたは出資している。どうですか、少し配当はあるんですか。配当なんて出てこない。

それでもかなり売れるようになってきましたよね。

○参加者

いろいろなところで売られるようになっていきます。

○知事

山梨県内ばかりではなくてね。清里のブランド名があるものね、そういう点は

いいですよ。

○参加者

富士ヶ嶺が今寂しくなってきたというのは、結局、3代目の後継者、跡継ぎの人というものが減ってきているんです。あとはもちろん高齢化で酪農業自体を手放していく大先輩たちもいっぱい増えてきて、今こういう厳しい状況で、さらにそれが追い討ちをかけているんですが、東京とか首都圏から近いということ、富士五湖という観光地に近いということで、さらに富士山が強力な武器という感じで、酪農で使われていた農地を使って、また新しく農業をやりたいという人がいっぱいいて、いっぱい声が、それも若い世代から、子育てする世代から聞こえてくるんですが、なかなか、もちろん私たちの地元の人間の意識もまだまだ狭いというか、オウム事件の傷もありますけれども、なかなか、すぐ貸しますとか、ではすぐに研修に来て、すぐにいって、そういう流れがスムーズになってなくて、やっぱりあきらめて断念していってしまうという人がいっぱいいるんですね。

そういう声を聞くと、私たちは本当におじいさん、おばあさん、お父さん、お母さんのバックアップがあつての、今、3代目でありがたくやらせてもらっているので・・・ やっぱりそうやって外から入ってくる声に対しても敏感になって、もうちょっとそういうところを、自分たちも何とかそこに意識を向けていきますけれども、行政のほうでも何か手段を講じていただけたらと思って。

○知事

若い人でも入ってきたいという人は大勢いるということですか。

○参加者

いっぱいいるですよ。

○知事

酪農をやりたいという人は大勢いるということ。

○参加者

そうですね。

さっきも言ったように、大先輩たちが手放そうとしている、その土地とか、もちろん牛も含めて、資材を全部請け負ってでもやりたいという人はいっぱいいるんですが、なかなかその中間に入って、パイプ役でつなげる人間もいないですし、行政のほうではどういうふうになっているのか、いまちはっきりしていないので、よく分からないんですが、うまくいかないようで、やっぱり個人同士の話だと、いろいろこじれるので、そういうところを地元の自分たち、若い世代が努力して間に入るとか、行政のほうで入っていただくとか、何かをしていただけたらと。

○知事

若い人で酪農をやりたいという人がそれだけ多いということは、心強いんだけど、いざここを貸しますから、どうぞと言われても、そうはいかないね。

○参加者

信用問題とか・・・。

○知事

研修を受けて、技術をそれなりに身に付けて、そしていろいろな機材とか、そういうものもきちっと確保してやっていかなければいけないわけですが、それはちょっと大変ですよ。農業だと畑をちょっと借りてやれば、野菜ぐらいできるけれどもね。酪農の場合はそうはいきませんものね。

○参加者

例えば北海道で研修したり、ヘルパーさんとして10年近く経験を積んでいる人とかも、それでもやっぱり入れないという現状なので、そのへんが・・・。

○知事

やっぱり設備にお金がかかるんですか。

○参加者

そうですね。

○知事

それよりも土地を借りるのが難しい。

○参加者

両方。

○知事

もうかなり空いている牧場というのはい多いでしょう、最近は。

○参加者

多いですね。

○知事

富士ヶ嶺で酪農の戸数というのは、ピークでどのくらい。

○参加者

ピークは100戸くらい。

○知事

そうですか。そういう若い人で酪農に入りたいという人がいるということを知りますか。

○畜産課長

直接的には、この間もお聞きしたんですが、間接的には来ないので、畜産関係の指導の機関、畜産試験場がありまして、二人職員がいて、状況とかそういうものは把握をしているんですが、なかなか土地問題まで入ると難しいところがあります。

今、お話のとおり、酪農を行うには資機材も必要になってまいりますし、牛も導入しなければなりませんし、結構、資金が必要になります。国のほうで制度資金は用意してあります。農業改良資金なんかも新規就農のメニューもあり、使えますが、今お話のあったように、その橋渡しといいますか、土地の算段がなかなかスムーズにいかないところが。

○知事

そうですか。

どうぞ。

清里のほうはどうですか。そういうことはありますか、やっぱり。

○参加者

私個人はそういう話は聞かないです。今お話があった、やっぱり酪農は地域性の強い職業である、地域の人たちとの交流があってこそその仕事である、ある意味、新規産業で入ってくるには、ちょっとしづらい業種では確かにあると思うんですね。土地を購入するにしても、やっぱり信頼関係みたいなものがあって、そういうことがちょっと難しいのかなとは思いますが、実際、北海道とかああいうところは、新規参入で入ってくるんですが、私が知る限りでは、あっちのほうが多いので、そういうところでも例えばどういうふうな形成になっているのか、新規参入が多い県のほうで、どういった形で動いているのか、山梨県のほうでもそういったものを取り入れるということをしていけば、山梨県の酪農も発展して、新規参入の方とかも入りやすいような形になっていけるんじゃないかなと思います。

○知事

それはそうですね。

そうやって新規にやりたいという人がいながら、なかなかそれが実現しないというのは、もったいないですね。富士ヶ嶺はやっぱりいろいろな意味で景観もいいし、入りたいんでしょうかね、やっぱりね。

静岡県なんかすぐ近くにあるんだけど、静岡県なんかはどうしているんでしょうか。あまり静岡県のほうとお付き合いはないですか。

○参加者

それなりにですけれども、そこまで深い話もなかなかしてないですね、まだ今のところ。ただ、静岡のほうはまだ制度として、さっき言ったパイプ。つなぎ役。本当に地域性というものがあるんですが、やりやすいんですね。流れがちゃんとあるというか。それはもう自分たち、新しい世代の役割だとも思っていて、そのパイプになっていくという。もちろん自分の家をしっかりしていくのと、平行してですけれども、そうしないともったいないなという。

○知事

それはちょっと検討してみなくてはいいですね。

そうですね。

富士ヶ嶺は一時期それぞれかなり資金を借り入れて、かなりの投資をして、そういうものが大変だと聞きますけれども、そういうことはありますか、やっぱり皆さん。

○参加者

一時期かなり投資をして、もう大体、今、経営自体が安定してきている時期にきていると思うんですね、富士ヶ嶺も清里もそうですね。

○知事

今、牛乳の値段というのはかなり上がったんですか。

○参加者

そうですね。一昨年3円、去年10円というように、都合13円上がったわけですが、それは飼料があまりにも高騰したからというようなことでしたけれども、やっぱりそれと平行して、とにかくリーマンショック、そんなものこん

なものがあって、結局、長年の取り引きでもって、今年も一応維持されている。そんな値段でもってやっていますけれども、とにかく検査だけでも7項目も8項目もあって、その検査をいかにクリアするか、それが安心・安全だということでもって、今そのへんでの生産を皆さんが一生懸命頑張っているというところですね。

○知事

ほかにいかがですか。

○参加者

牛乳の成分とか品質とか、かなりやっぱり酪農家さんは気を使いながら出荷しているんですが、私自身は獣医師をやっておって、酪農さん個々ともかかわらせていただいているんですが、やっぱり牛乳をいかにいい製品として出荷しなければいけないかということ、日々努力しているんですが、そのなかにやっぱり病気もあったり、例えば乳房炎という病気があるんですが、お乳が乳房の中で腐敗したり、細菌感染を起こすわけですよ。そういう牛乳はもう出荷できないので、治療の対象になってくるんですが、そういう治療をしながら農家とやり取りをしている中で、やっぱりいい牛乳を出してもらわないと困るねという話をしながら治療したりしています。

今年なんかは特に夏場はもう平年から比べたら、かなり暑い年だったので、猛暑というような。特にそういうような乳房炎が多かったり、結局、全身症状が出てしまうと死んでしまったりするので、そういうような管理上の指導とか、そういうこともやったりしているんですが、非常に乳質を気にしながら、皆さん牛乳を、皆さんにいい牛乳を飲んでもらうように、こういう製品になるわけですが、いい製品になるように、日々努力をしているということですよ。

○知事

ふじがね高原牛乳というのは、あれはどこが作っているんですか。どこが作っているというとおかしいけれども、生産はどこがやっている。どこか委託生産しているということですか、あれは。

○参加者

そうです。朝霧のほうの。

○知事

そういう生産会社があるんですか。

○参加者

そうです。

○知事

それは大手。

○参加者

大手ではなくて小さな。

○知事

そうですか。まだまだ始まったばかりというか、あまり量は多くないですね。ふじがね高原牛乳は、少しずつ富士五湖地域とか、あのへんの観光客向けに売っ

ているということでしょう。

○参加者

そうですね。

○知事

あまり収入の足しになるようなものではない。

○参加者

まだプラントを立ち上げてというところまで行ってないんですよね。

○知事

そうですか。

どうですか、何か。一番苦勞する点はどういう点ですか。

○参加者

今日もちよつと風邪を引いて来れなかった人の意見をもらってきたんですが、県への要望ということで、飼料畑の隣が県有林で、ここ10年ぐらいで枝が伸び、日陰になり、収穫量が減って困っていますということなんですが・・・。

あと1つ、農政の県職員の方で専門分野に詳しい方がすぐにほかの課とかに異動してしまうのもったいないということなんですが・・・。

○参加者

たぶん家畜保健所の先生方も異動されてしまうので、なかなか継続的な検診というものが受けられないというのが、もしかしたらあるのかもしれないですね。

○畜産課長

それはまた要望としていただいて。

試験場でその牧草の関係とか受精卵の移植とかのテクニックを要する熟練した人がいないと・・・いろいろと事情もありますので・・・

○知事

県有林の枝の話は切ってもらったらいいですよね、それは当然。あとでその方に電話をさせるようにしますから。それはやっぱり自分の畑の飼料に影響するわけだからね。それは当然、困らないように切ってもらわなければいけないね。

あなたはどうか。

○参加者

酪農試験場で今、受精卵とかをやってもらっているんですが、もっといい牛を生産して県内に広げるといふか、そういうことをもっとどんどんやってもらいたいと思って。

○畜産課長

平成の初めのころに、スーパーカウといいまして、牛乳が年間1万トン以上出る、その系統をずっと引き継いでいます。途中でアイオワと交流をしておりますが、それとともに受精卵もいい系統のものを入れまして、その系統を累々と育てているんですが、だんだん年数が経ちますと改良が衰えてまいりますので、しばらく経ちますと、また更新をしませんとなかなか、むしろ生産者の皆さんが改良のすごい牛をお持ちになっている方が多いですので、それに遅れないようにするには、やはりリフレッシュしませんとならないと考えています。

そういうことで今後、いい系統の牛を徐々に予算要求をして、前向きにやっ  
ていこうというように計画しています。

○知事

乳牛も子牛を買ってくるんですか、それとも受精卵で、産ませて育てていくわ  
けですか。

○参加者

人工授精でやったり。

○知事

そうですね。子牛を買ってくるということはしないんですね。

○畜産課長

最近は受精卵のほうが手っ取り早いんですね。オス系はいくらでも得られます  
ので、バリエーションがそろっていますので、それで改良していくような形で。

○知事

そうですね。

○畜産課長

1頭だけですので、なかなかそのバリエーションが得られないということと、  
受精卵のほうが安い。

○知事

そうですね。

どうですか。

○参加者

昨年ですか、北巨摩の酪農家さんの仲間内で話が出たんですが、石和の総合県  
税事務所で軽油の申請をしていますよね。それをできれば市町村の自治体に窓口  
になってもらって、そこで申請交付してもらったらと・・・行くのに時間がかか  
るんです。それに申請も内容が細かいんです・・・年間報告やほかの資料を書い  
たりして・・・

ご年配の方は余計出向きにくくなってしまい、使いたくても使えない。

○畜産課長

市町村税じゃないので、市町村にお願いできるかどうか・・・。

○知事

だけど山梨県なんかまだ小さいからだけれども、大きい県なんかの場合はどう  
しているんでしょうかね。長野県なんかは長野市まで行かなければいけないなん  
ていうことになれば大変ですよ。どうしているかな・・・

いかがですか、何かありますか。

○参加者

酪農協は、牛乳の販売手数料で運営しているわけですが、やはり飼料面と乳牛  
の確保ということが一番、牛乳を出荷するのに大事なことでございまして、その  
なかでやはり県のまきば公園でも黒牛をやっていますが、やはり酪農家側とすれ  
ば、少しでもメリット、子牛の育成をするよりも県で買い上げるなり何なりして、  
初妊牛にしたものを酪農家へ供給できるようなシステムを、ぜひとも和牛と同じ

ような方策の中でやってもらいたいなど。そうすると、酪農家の労働の軽減にもなるし、頭数の増頭もできるということになるんじゃないかなと。そのへんをご検討願いたいと思います。

○畜産課長

現在は黒毛和牛のお母さん牛を200頭飼ってまして、それから生まれた子牛を1カ月ぐらいの子牛を県内の農協経由で生産者にお分けして、リクエストに応じて最初に赤ちゃんができたお母さん牛を初妊牛ということで、売却しております。

それをホルスタインでやってほしい、乳牛でやってほしいということですね。現在のところは、お預かりは育成牛、お母さん候補牛をお預かりして、夏場は放牧、冬場は畜舎内で飼ってお預かりをしているんですが、ホルスタインのお母さん牛に妊娠牛を売却するという部門は今のところ、県立八ヶ岳牧場ではやっておりません。全く新しい領域なんで、そうしますと、これは施設も、餌の確保、それから人の確保、またその母牛の確保と、四つどもえで大変な投資が必要になりますので、これについては検討させていただきたいと思います。

○参加者

というのは、やはりある程度、山梨県でも、北海道あたりから導入しますよね。そうすると、輸送経費、もろもろの経費で相当高額になってくるわけで、そのへんをコストダウンできないかとか・・・やはり酪農家としても、いろいろな課長が言うように、いろいろな面で手間と費用が、いろいろかかるとは思いますが、若い人たちの努力の軽減ということも考えて、ご検討願いたいと思います。

相当かかるんですよ、北海道からね、2日かけてこっちへ持ってくると、輸送経費と、なんだかね、県内産じゃいいけれども、さっき言った宮崎じゃないけれども、口蹄疫が出たことで県外も駄目だという。北海道でもぼちぼち出るし、すると、やはり自分の県で生産して、働いてもらうということが一番理想の、自己防衛ではないけれども、いいじゃないかなとは思いますがね。

○知事

山梨の近辺でそういうことをやっているのは、何県がやっているんですかね。長野県とか静岡県とか。

○参加者

子牛ですか。ほとんどないですよ。北海道が主流です。

○参加者

あると言えば、岐阜とか・・・。

○畜産課長

本州では栃木・千葉が酪農県なんですが、今のところ試験場もやっていないので・・・。

○知事

こういうとき47都道府県というものが、かえって邪魔でね。本当はもっと何県かで一緒になって1つやれば、効率的にできるわけですよ。それぞれの県がやり出したら、それはね・・・。

一つひとつの県でやり出したら、とてとても大変なもので、難しいですよ。どうですか。

○参加者

知事さんは牛乳は好きですか。

○知事

牛乳も好きですし、チーズも好きですね。ワインも好きだから、チーズとワインなんて、いいじゃないですかね。カマンベールなんて大好きなのでね。

このミルクプラントのは食べたことがないですから。

○参加者

酪農というのは産業として、ブランド化していくほうがいいんでしょうか。知事さんのお考えというか、どういうお気持ちかということをお聞かせください。

○知事

やっぱり搾って、乳で出すというよりは、こうやっっているいろいろな加工をして、付加価値を高めていくということは大事だと思いますよ。清里ミルクプラントが成功を、まだ成功しているか分からないけれども、しかしそれでもかなり規模は大きくなったよね。勤めている人だって26人いるということだから・・・。

だけど生産したあとの搾った乳のかなりの部分を出しているんですか。

○参加者

それは清里の中のある酪農家さんのところで、牛乳を使っているんですかね。そういう形にはなっています。

○知事

じゃあ、まだこういうものの生産もそんなに大量に作っているわけではない。

○参加者

そうですね。清里でこの加工する施設自体が1トンでしたか、加工施設。1トンまでしかできないというような決めの中でやっているの、1日の処理能力が。

○知事

1トンといえば大体頭数で何頭分くらいあるんですか。

○参加者

30頭・・・。

○知事

これはだけど東京なんかにはいろいろ出すと、評判いいですよ、結構。味もいいしね。何か清里というのが、非常に良いイメージとしてあるからね。

どんどん広めようとかということにはならないんですか、まだ。

○参加者

努力はしていると思います。新しい商品というのを開発していこうという姿勢はあると思いますね。

○知事

何か知恵を絞って付加価値を付けていかなければいけないと思うね。

その清里方面の皆さんというのは、搾った乳はどういうところへ出しているんですか。

○参加者

基本的には、農協を通じて長野県の茅野あたり・・・。

○知事

何牛乳。

○参加者

八ヶ岳牛乳と言って、その会社も雪印のメグミルクと一緒にあって、また新しい組織もできるようですが、今のところはまだ、八ヶ岳牛乳ということでもって、富士河口湖町、またこの国中、そして北杜、北巨摩そういうところの牛乳を全部送っています。

○参加者

近いところで加工をして販売している。

○知事

牛乳は学校給食とか、そういうものでいろいろ随分前から飲んできてね・・・この間、国の事業仕分けされていましたよね。

○畜産課長

PR部門のところ、いろいろ削られまして、ランチョンマットとか小学生の皆さんに配布して、牛乳に親しんでもらおうという、そういう付属品がカットされました。

○知事

どうですか。

○参加者

自分の家に入って、もう14年ぐらいになるんですが、ちょうどそのときに規模を拡大させていただきまして、何とか今、自分も頑張っているんですが、そういった行政とか県からとか、いろいろな指導をこれからずっと続けていただいて、自分もこれからずっと続けていけるように、いつまでも酪農が続けられるような体制を、ずっと支援していただければなと思います。

○知事

200頭近くいると、家族ではちょっとできないくらいですか。大体いっぱい、いっぱいですか。

○参加者

家族だけだと無理ですね。

○知事

それじゃあ人を雇っているわけですか。

○参加者

そうですね。

○知事

何人ぐらい。

○参加者

2人です。中国から研修生を・・・3年ローテーションで・・・

○知事

よく働きますか、どうですか。

月20万円ぐらいかかる。

○参加者

そうですね、かかりますね。仕事の割にはといたらあれですが・・・  
やっぱり一番かかるのが人件費ですから。

○知事

20万円にプラス、そして部屋も必要なんでしょう。

○参加者

買い物とかにしても連れて行かなければ、近くにスーパーもないし、そういう日用品も買えないので。

○知事

そうですね。車で連れて行かなければ。

○参加者

そうですね。

○知事

大変ですね。

しかし、そういうルートというか、研修生を呼び込む、ルートというものはできているわけですか、大体どこか。

○参加者

今は千葉のほう。

○知事

千葉のそういう方に頼んで。中国の何省、どのへんの人がある。全くの素人で来るわけですか。

○参加者

全くの素人です。日本語もほとんど・・・

○知事

それでもやっぱり働きますか。人にもよるでしょうけど・・・

○参加者

個人差はやっぱり大きいですね。

○知事

そうですね。

○参加者

国民性もあって・・・間違ったことをやっても、私はやってないとか、全然そんなことは平気ですから。

○知事

だんだん中国も発展してきたから、研修生も来れなくなるかもしれないですね。

○参加者

そうですね。

○知事

そういうときはどうするのかな。

○参加者

そのためにも、地元がもっと活発にというか、酪農を頑張っていければ・・・。

○参加者

さっきの話につながってくるんですが、将来やりたい、そして過去にヘルパーをずっとやっていたと、行き場がないという感じの人が2人。その全バックアップはできないんですが、2軒とうちと掛け持ちで生活はうちでしてという感じで。

○知事

その人に、半分ぐらい手伝わせるような形にしてあげてね。掛け持ちでね。研修を兼ねてということだね。

○参加者

研修と、あといろいろ、酪農といっても、例えばいろいろな技術とか知識とかが必要なので、自由に行って学べるような状態を整えてという感じです。牛の爪を切るとかという感じで。

○知事

しかしそうやって皆さんがある意味、研修をやっていってくれば、この繰り上げで例えばどこか空いているところがあればね。

○参加者

その方々は独身男性30代で、それでぎりぎりやっていたらっしゃるんですが、子どもがいて夫婦で入ってくるとか、実際にそういう状態に入ってきたという人というのは、すぐにでもお金がやっぱりほしいわけです。それで、それなりに北海道なりいろいろなところで修行してきて、決めて入ったはいいんだけど、もう動けないという状態なので、それは彼らのもっと県に働きかけるとか、努力が足りないという部分もちろんあるとは思いますが、そういう意味ではまだまだだと・・・。

子どもが増えるとか、自分も子どもが、やっぱり子育てをしている世代なので、やっぱり子どもがいて、入ってくる家族の厳しさというものは感じますし。

○知事

そういうところが農業とちょっと違うところですね。大変なことだよ、酪農を始めるということは。

しかし、そういいながら、195頭やっておられる。大体これがいっぱい、いっぱいという感じ。

○参加者

施設のにも。

○知事

だけど、やりようによっては、もうちょっと効率化をして、もっと何百頭とか家族でやっているというような例は全国であるんですか、北海道あたりはどうなんでしょうね。

○参加者

家族ではたぶん大変だと思う。

○知事

北海道あたりでも、やっぱり家族でやるとなれば、200頭とかそのぐらいになるんですか。

○参加者

従業員を入れて。

○知事

そうですか。

○参加者

体がやっぱり持たない、毎日だと。

○知事

ところで2年ばかり前に飼料がすごく高騰したときに、何かやっていたよね。飼料支援策というような・・・。

○畜産課長

基金は全国レベルでやりましたけれども・・・。

畜産のほうはコントラクターといたしまして、作業の受託組織の育成をやっております。3年の事業でして、今日おいでの清里地区、それから富士ヶ嶺地区でその事業を導入されています。

○知事

それは役に立っていますか、ちょっとは。

○参加者

うちは利用してないから。

○畜産課長

一部の方ですが、大型機械のオペレーターも必要ですから、建設会社の方とタイアップをして・・・清里のほうについては、いろいろな収穫作業とか運搬作業をやっています。

面積も結構広くて、清里は牧場面積が96ヘクタール、豊茂のほうは50ヘクタール。

○知事

富士豊茂はいいところなんだけれどもね、本当に。ちょっと霧が多いですね。清里は最近どうですかね。清里でやっているメリットはありますか。観光的なことは多少あるんですか。あそこの観光客とか、そういうところで何か。

○参加者

メリットですか。

○知事

あまりないですか。関係ないですかね、観光とはね。

○参加者

知事さん、私も最初に厳しいようなお話をしたと思いますが、明るいニュースとしては、おそらく知事さんも新聞をご覧になっていただいたと思いますが、山日YBS農業賞を酪農業協同組合の組合員が受賞され、大変明るいニュースということで、大変私たちも今喜んでおります。

清里では大豆とかそばとか、そういうようなものを受託して何人かの、もちろん

ん中年ですけれども、この方々が遊休農地などの畑を請け負って、それでそういうものをつくって、そしてそれをミルクプラントに隣接している「ともにこの森」というのが、つくっています。その森の中でもって、私たちはミルクプラント、そのほかの人たちは大豆をつくる人、それからそのそば粉を使った、そばの粉でもってジャム屋と、それからクレープですよね。それからあとはイチゴを使ったところのケーキですよね。そんなようなものをそれぞれの人たちが製造販売というようなことをしております。

○参加者

こちらの方は、県内で唯一、搾乳ロボットが入っている酪農家さんで・・・。

○知事

搾乳ロボットというのはどういう、何かこう・・・。

○参加者

牛が通過すれば、そこへ勝手に。

○知事

勝手に乳首へポンと付けて。

そういうものがあるんですか。それはすごいですね。

○参加者

タグが付いていて、機械がそれを認識します。そうすると、この牛が毎日どのぐらい乳を出すかとか、すべてのシステムが・・・。

○知事

大したものですね。

これはどのくらい、お金はかかるのかな。

○参加者

3千万円ぐらい。

○知事

すごいですね。そうですか。

○参加者

牛が自ら搾ってもらいたいときに、そこへ自分でどンドン行きます。

○知事

素晴らしいですね。あまり全国的にもこれを入れているところはない、少ないんですか。

○参加者

全国で100件ぐらい。

○知事

やっぱり大したものだな。こういうものを使って、合理化して、たぶん空いている畑があるわけですから、そういうところを借りてもっと増やそうとか、そういう気持ちはあまりないですか。

○参加者

借りたいんだけど、やっぱり人同士となるといろいろあって、やっぱり間に入っている人がいたほうが。

○知事

難しいですか。相対でやるのはね。  
できることならば、少し広げたいということはあるんですか。

○参加者

農地のやっぱり草を・・・。

○知事

牧草をね、借りられるものならね。もう完全に荒らしづくりになってしまったような、そういう牧草地もあるんですか。もったいないですね。

○参加者

あります。  
所有はしているんだけど、維持するだけの手はかけないとかね。

○参加者

使わないなら貸してくれというんだけど、やっぱり貸すのは嫌みたいで。

○知事

誰か間に立たないと、なかなか交渉できないじゃないですかね。値段をどうするのとかね。なるほどね。そうですか。

○参加者

うちでも牧草地をつくっているんですね。今年になって、山梨県全域にシカが出たり、クマが出ている。個々の牧草地のほうは、個々が管理し、個々に投資すればいいのだけれど、広い牧草地で、それに柵を設置するにもお金がかかりますし、やっぱり県のほうもそういった被害に対して、何とか支援というか、そういったものは・・・。

○知事

やっぱり牧草地もかなり被害を受けますか。牧草が生えてくる頃に食べられてしまう。

○参加者

一番いいところを食べていくんです。

○知事

防護柵をつくるということがあるんだけど、補助はあるんですよね。

○畜産課長

農業のほうにはありますが、畜産のほうにはちょっとないです。

○知事

それはうまくないね。

○畜産課長

あと林政の関係の・・・鳥獣害で・・・

○知事

そうですか。では、畜産やその酪農の関係は、そういう飼料畑を保護するような助成制度はない。農林水産関係で。

○畜産課長

放牧する場合の柵の設置とかはありますが、採草地という、草をただ取るだけ

のところは、牧柵はしませんので、どうしても入ってきてしまいます。  
普通の牧柵の高さだと、飛び越えてしまいますね。

○知事

清里もかなり多くなってきていますか、シカは。

○参加者

多いですね。

○知事

かなり撃ってはいるんですけどもね。北杜市あたりは毎年どのくらい撃っているのかな・・・ 300頭ぐらい撃っているのかな。それでも、まだ間に合わないだね。八ヶ岳牧場周辺では、わなを使ってシカを取っていますよね。

○畜産課長

県の牧場にもいっぱい来ますが。

○知事

ただ、昼間はあまり来ないんですね。牧場には、夜来るんですか。

○参加者

夜と朝方ですね。

○知事

夜来るものだから、鉄砲で撃てないから、そういうわなを使うとね。  
そういう何かやっぱりシカの害は受けますか。どうでしょう。

○参加者

イノシシも。

○知事

イノシシね。どのへんで。

○参加者

私は長坂です。

○知事

あのへんに来ますか。

○参加者

来ます。

最近シカは確かにここ2、3年増えてきてますね。それまではイノシシの防除だけでなんか対応できたんですが、シカが増えましたね。

○知事

そういうものは今どうしていますか。

○参加者

柵を高くしてます。

牧草地はどうしようもないので、今誰も何もしてないですけども・・・。

春先、収穫しに行ったときに、全然もう生えてないんですね。みんな食べられて、シカの糞だらけです。

○知事

そうですか。これはちょっと問題だ。富士ヶ嶺のほうはあまりシカの害は聞き

ませんね。

○参加者

柵が設置されて。

○知事

柵をつくっている。電気柵ですか。

○参加者

いいえ、すごい背の高い2メートルぐらいの。しかし、その柵をよけて来るよね、ちゃんとね。

○参加者

やっぱり開いている道とかから・・・。

○知事

道のところは開くからね、入ってくるね。

○参加者

いっぱいいるよね。

○知事

被害はある程度・・・。

○参加者

前よりは少なくなった。

○知事

その柵ができてから。富士河口湖町は町がやったんですね。

豊茂は、囲いやすいことは囲いやすい。清里となると、これは中には人も住んだりしているから大変だよね。困ったものですね。清里も農地なんかはやっぱり囲っているでしょう。

ほかにはありますか。

○参加者

さっき受精卵の話も出たりしたんですが、受精卵なんかも県の酪農試験場という機関があるので、どんどん卵を生産していただいて、農家のほうへ配布できるように。今どうしても卵も取れる数が決まっているのか、なかなか酪農試験場へ行って、卵をくださいといっても、なかなかほしい卵が手に入らないというような状況なので、そういう部分では卵を、優良な牛を増やしていくということで、生産していただきたいということですね。

あと、子牛の育成ということなんですが、八ヶ岳牧場さんのほうで今、通年預託、また夏季預託していただいているんですが、酪農家にとっては自分の家で飼うスペースを確保するのが難しいから牧場へ預けるといようなことなので、ぜひ牧場でもしっかりいい子牛が育つように、人員の確保とこのまま続けていただきたいと思いますということがあります。

○畜産課長

今の受精卵の話ですが、去年は採取するのが間に合わないぐらいだったんですが、今年は若干余裕がありますので、お分けできる在庫がございます。

○参加者

あと酪農家が和牛の生産というようなことで、ホルスタインの母牛に黒の受精卵を移植して、純正の黒を生ませるというような取り組みも、酪農家さんの中ではしている農家があり、そうすると県産の純粋の黒毛和種というものが生まれてくるわけだから・・・市場へ出せば、それなりのお金で買ってくれているので、県内にもっと広まっていけばいいのかなというように・・・そういうような新しい技術が広まっていけば、もっと山梨の畜産に貢献できるんじゃないかなと、そういうふうに考えています。

○畜産課長

今後、系統のいい牛をそろえるように、予算要求もさせていただく。

○参加者

最後に、私ども、この組織の中では昨年までは“牛乳に相談だ。”というキャッチフレーズの中で、大量宣伝をしてきましたけれども、今年は知事さん、“MILK JAPAN (ミルクジャパン)”というようなことでもって、今年も一生懸命、皆さん方と、生産されている牛乳をいかに売るかというようなことにつきましては、大量宣伝を広げたわけですが、今年から3年の計画で、より売っていこうということで、特に30歳代と申しますか、お母さんになった人たちにいっぱい牛乳を飲んでもらおうと、こういうような作戦の中で、事業を展開をしているわけです。

どうか、牛乳の乳製品の消費拡大のためにも、まずは知事さん自身が、自らいっぱい飲んでもらって、健康づくりをしてもらって、県政に励んでいただきたいと、このように思います。

○知事

学校給食にはみんな出しているんでしょうかね。大体地元の牛乳を使っていますか。

○参加者

かつては、週5日間のうち、1日だけ地元の牛乳ということでもって使ってもらった経過がありますが、なかなか財源が、いろいろ難しいというような点がありまして・・・消費税10%なんていうことになるとしたら、消費が減退しますし、非常に大きな問題だと感じているところですけども・・・学校給食に使ってもらえれば、本当に幸いだなど、このように思うわけです。

知事さんに、どうか一つ頑張ってください・・・今日はいい機会を設けていただきまして、本当にありがとうございました。

○知事

皆さん、ありがとうございました。

それぞれ若い皆さんがいろいろな悩みを抱えながら、本当に一生懸命、山梨の酪農を振興するために頑張っておられるということを知りまして、心強く思いました。

しかし、同時にいろいろな問題、課題があって、大変苦勞しておられるなというように思ったわけです。そういうことに関して、なかなか財政の制約があったりするから、県がすぐいいよ、やるよ、というわけにもいかないわけですが、皆さん方の悩みというようなものは、よく分かりましたので、そういうもの

に少しでも応えられるように、これから努力をしていきたいと思ひます。

組合長はじめ皆さん方には本当に貴重な時間、お集まりをいただきまして、本当にありがとうございました。今後ともまた頑張ってください。

どうも、ありがとうございました。

○司会

以上をもちまして、ひざづめ談議を閉じさせていただきます。